

西海ブロック水産業情報

NO. 102(平成30年7月～9月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
なし。	<p>○豊前海 【カキ養殖】 ・全体的に成長が遅かったが、9月以降順調。 ・研究所で浮遊幼生調査を実施。10/2で終了。 【栽培関連】 ・「かぐや装置」によるアサリ稚貝生産、網袋による干潟での放流試験を実施中。 【資源管理】 ・5月から、抱卵ガザミの再放流を実施。8/27時点で5,127尾実施(6,400尾実施予定)。</p>	<p>○玄海 ・カサゴ:5月上旬から下旬に全長40～50mmを約10万尾配布済。6月下旬から8月上旬に全長50～60mmを約5千尾配布済。 ・クロアワビ:平成28年度産:4月中旬に放流用約3千個(30mmサイズ)を配布済。平成29年度産:殻長15～21mm約4万個飼育中(9月下旬)。 ・マナマコ:アオナマコ:約67.2万個配布終了。アカナマコ:約31.3万個配布終了。 ・マサバ:64～126mmサイズ約8万尾を唐津市へ引渡完了。 ○有明海 ・マガキ養殖 ・平成30年の生産は、平成29年11月中～下旬に宮城県から購入した種カキを、4月下旬から5月中旬まで牟田干拓で抑制飼育した後、沖合の26基の筏(19経営体)に沖出しし、養殖を実施している。なお、平成30年6月下旬から7月上旬にかけての大雨後に、一部の養殖業者で垂下中のカキ稚貝が脱落する現象が見られた。</p>		<p>・8月～9月:マダイにおいてマダイイリドウイルス病が発生し、被害が確認された。 ・9月:シマアジにおいてレンサ球菌症の発生が数件確認された。</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>・スジアラ種苗生産:約3.8万尾を生産。 ・イワガキ種苗生産:6～9月に採卵し、中間育成中。 ・8～9月にかけて八代海で<i>Chattonella antiqua</i>赤潮が発生したが、漁業被害はなかった。</p>	<p>○アカアマダイ種苗生産技術開発関連 現在、種苗生産を10月に実施しているが、生長期の最終期にあたること、荒天や潮流等により操業が困難な場合が多く、不安定要素が強いことから、表層水温が28℃付近と高く、親魚の生息水温との差が大きい状態にはあるが、生殖盛期に含まれる9月での試験採苗を試みた。9月18、19日に2隻のはえ縄漁船を用船し、表層水温が27～28℃、釣獲水深層(100～130m)の水温が約17℃の状況下で活魚採捕を行った。眼球突出や鰓膨満が起らない程度で素早く釣り上げ、20℃に調整したクーラーボックス中の海水に収容した。2日間の操業で14尾の雌活魚を確保でき、20、21日で採卵・媒精を行い、約13万粒の受精卵、約38,000尾の孵化仔魚を作出した。海水温の高い9月においても、釣り上げ方法の工夫や船上での水温調整により親魚確保が可能であることが確認できた。</p>		特記事項無し。